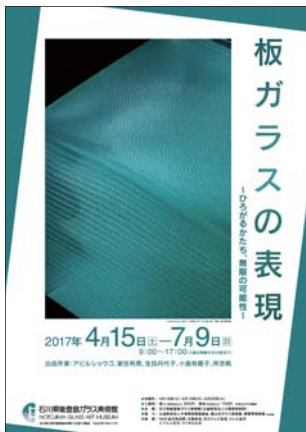


これまでの展覧会・イベント (平成29年度事業報告)



企画展

板ガラスの表現

～ひろがるかたち、無限の可能性～

会期／2017年4月15日(土)～7月9日(日) 開館日数／83日間 入館者数／8,931人
協力／公益財団法人中信美術奨励基金、富山市ガラス美術館、樂翠亭美術館

窓ガラスなど工業製品として私たちの身近にある板ガラスに焦点を当てた展覧会。一見すると透明に見える板ガラスですが、視点を変えることで見えてくる色の深みや、光の反射によって鏡のように見る者の姿を映し出す、といった様々な表情を見せる素材でもあります。

本展では、板ガラスを表現素材としてとらえ創作活動を行う現代作家5名(アビルショウゴ、家住利男、生田丹代子、小島有香子、所志帆)の作品をとおり、1枚の板ガラスから生み出される造形の魅力と素材としての可能性を紹介しました。

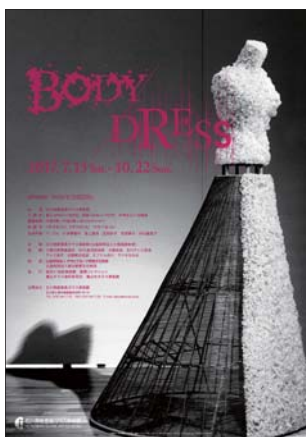


◆会期中の関連イベント

スペシャルワークショップ「板ガラスでオブジェ作り」

開催日時／2017年5月4日(木・祝)、6日(土) ①10:00～、②11:15～、③13:30～、④14:45～
参加者数／33人 参加費／500円 定員／各回7名先着順(予約不要)

ガラス素材への関心や理解を深めてもらうことを目的に、カットといったガラスの成形技法を一つ一つ体験しながら板ガラスのオブジェを作るワークショップを開催しました。ガラスを切る作業では、初めて体験された方も多く、板ガラスをまっすぐなラインでカットできた瞬間には、ひと際大きな驚きと喜びの声があがりました。



特別展

BODY / DRESS

会期／2017年7月15日(土)～10月22日(日) 開館日数／97日間 入館者数／15,342人
助成／公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人朝日新聞文化財団
協力／金沢21世紀美術館、高橋コレクション、富山ガラス造形研究所、富山市ガラス美術館

「ガラス工芸」という枠組みを超えて、現代を生きる人間の表現としてガラス素材を用いる女性作家6人の作品世界を紹介し、従来とは異なる角度からガラスに光を当てました。女性身体と、女性にとってもう一つの皮膚とも言えるドレスをテーマとし、鑑賞者に皮膚感覚で作家の世界観を体感してもらえるようにインスタレーション作品を多く展示しました。また本展は、表現素材としてのガラスの魅力を伝えるとともに、ジェンダー、美術工芸におけるガラスなど、重層する「中心と周縁」の関係性からガラス表現の可能性を考察するものでもありました。

◆会期中の関連イベント

スペシャルワークショップ「絵本のじかん～絵本で感じる作品世界」

開催日時／2017年8月20日(日)、9月17日(日) 両日とも①10:30～ ②14:00～ 参加者数／49人
参加費／無料(別途入館料) 絵本読み手／石川県生涯学習インストラクターの会のみなさん

絵本の読みがたりとギャラリートークを組み合わせたプログラム。展覧会テーマであるドレスと身体にちなんで、『魔女どっこいしょのごきげんなドレス』(垣内磯子／作、市居みか／絵、あかね書房)、ほか2冊の絵本を組み合わせ読みがたりをしました。子どもから大人まで、絵本の世界を楽しんだ後、学芸員とおしゃべりをしながらの鑑賞時間になりました。





能登島ガラスコレクション

新収蔵品展

～ガラスのカタチ～

会期 / 2017年10月28日(土)～2018年4月15日(日) 開催日数 / 158日間

平成25年度から28年度の4年間で、寄贈・購入あわせて83点の作品・資料を収集するに至りました。本展では、多彩な色や形、装飾模様といった作品が見せる多種多様な表現に注目し、新収蔵品を含む当館の現代ガラスコレクションから作品を厳選し、紹介しています。ガラスは、熱によって状態を大きく変化させる性質を持つ素材です。このようなガラスの性質と向き合うことで生まれた、作家たちによる多彩な造形表現＝ガラスのカタチをお楽しみください。



平成29年度 能登島“ガラスの丘”プロジェクト 主な活動

●ガラスで不思議体験！

バーナーワークデモンストレーション

開催日時 / 2017年8月12日(土)、13日(日) 10:00～16:00

協力 / 齊藤秀輝さん、齊藤悠子さん、高田範子さん

見学者数 / 823人(8月12日382人、8月13日441人)

北陸を拠点に制作活動を行っている3名の作家による実演イベントを開催しました。バーナーの炎でガラスを溶かしながら巧みに成形する技とユーモアを交えた話術で、見学者からは感嘆の声や笑いが起こる楽しいイベントとなりました。今年は会場を美術館内から別棟(旧ショップ・カフェ棟)に移したことで、遊歩道が上がってくるお客様が立ち寄りやすい動線ができ、例年よりも大勢の方が見学にいらっしやいました。



●わくわくワークショップ リクエスト編

開催日時 / 通年

参加者 / 199人

ガラス素材や工芸の面白さ、楽しさを知ってもらうことを目的に実施しています。10名以上の団体から利用でき、当館HPで公開している「受入れカレンダー」を確認後、希望日の1ヶ月前までに申込みことで来館時にガラス彫刻の工芸体験ができます。学校行事の一環として利用される団体も多く、今年は市内小学校や女性会など6団体の受入れを行いました。



●わくわくワークショップ

冬はガラ美でほっこり！ガラス彫刻体

開催日時 / 2017年12月から2018年2月までの毎土・日曜日

土曜日 13:30～15:30、日曜日 10:00～12:00

2018年1月2日(火)、1月3日(水) 10:00～12:00、13:30～15:30

参加者 / 208人

ガラス素材を使った手軽に参加できる工芸体験を冬季限定で開催しています。体験内容は、鉛筆型の電動ルーターを使ってガラスを削りながら表面に絵柄を描くもので、ガラス器の内側に貼りつけた下絵を外側からなぞるだけで簡単に完成させることができます。参加者の中には、当館が用意した下絵以外に、独自のキャラクターや模様を描いたり旅行の記念として日付を彫り込んだりする方もいて、それぞれの個性が溢れる作品を完成させて



いました。

トピック①

アートとクラフトの島 能登島ガイドマップ

能登島には、ガラス工房をはじめクラフトに携わる作家が在住し、島を拠点に創作活動を行っています。今回これら工房や作家の協力を得て、能登島を「アートとクラフトの島」として紹介するリーフレットを作成しました。A5サイズ、4ページで持ち運びやすく、各工房を巡るルートが一目でわかるよう、見開きには島のガイドマップを掲載しています。作成後は、より多くの方に能登島に来ていただけるよう、七尾市内だけでなく、「奥能登国際芸術祭2017」の開催期間にあわせて珠洲市内の各施設へも配布を行いました。



平成 29 年度 ガラ美の足あと

【教育普及】

5月4日(木・祝)・6日(土)
スペシャルワークショップ「板ガラスでオブジェ作り」
参加者数 / 33人

5月9日(火)
リクエストワークショップ
参加者数 / 32人

6月11日(日)
リクエストワークショップ
参加者数 / 10人

6月16日(金)
『ガラ美通信 No.43』発行

6月23日(金)
リクエストワークショップ
参加者数 / 36人

6月30日(金)
『アートとクラフトの島 能登島ガイドマップ』発行

7月29日(土)・30日(日)
『ガラ美感謝祭』2017(7/29開館記念日・7/30七尾市民無料デー)
市民無料デーには来館者全員にオリジナルグッズプレゼント

8月1日(火)
金沢美術工芸大学学生へのセルフガイド「ガラ美のわくわくシート⑦⑧」制作説明会



8月12日(土)・13日(日)
「ガラスで不思議体験！バーナーワークデモンストレーション」
別棟1Fに美術雑誌閲覧コーナー開設

8月20日(日)
スペシャルワークショップ「絵本のじかん～絵本で感じる作品世界」
参加者数 / 27人
協力 / 石川県生涯学習インストラクターの会

9月15日(金)
リクエストワークショップ
参加者数 / 64人

9月17日(日)
スペシャルワークショップ「絵本のじかん～絵本で感じる作品世界」
参加者数 / 25人
協力 / 石川県生涯学習インストラクターの会



9月29日(金)
『ガラ美通信 No.44』発行

11月5日(日)
出張ワークショップ(わいわい能登島ふれあいまつり)
参加者数 / 28人



11月12日(日)
出張ワークショップ(子育て支援メッセいしかわ2017)
参加者数 / 160人以上(延べ人数)

11月22日(水)
リクエストワークショップ
参加者数 / 36人

11月29日(水)
『ガラ美通信 No.45』発行

11月30日(木)
金沢美術工芸大学学生による「ガラ美のわくわくシート⑦⑧」案発表会

平成30年1月2日(火)・3日(水)
来館者に新春オリジナルグッズプレゼント

2月6日(火)
リクエストワークショップ
参加者数 / 21人

12月～2月の毎土日、1月2日(火)・3日(水)
「冬はガラ美でほっこり！ガラス彫刻体験」
参加者数 / 208人

3月16日(金)
『ガラ美通信 No.46』発行

3月26日(月)
「ガラ美のわくわくシート⑦⑧」発行
「美術館だより No.24」発行

【収集・保存ほか】

吉本由美子「空中計画—ガラスの三角柱—」付属品の台座修復(再制作)
新館収蔵庫内空調設備交換
新館資料展示ケース内照明器具交換(蛍光灯→LED)



平成 30 年度の活動によせて 末吉館長を偲んで

当館の末吉守人館長が、今年1月26日に急性硬膜下血腫のため70歳で永眠いたしました。石川県立美術館を定年退職後、平成22年度から25年度まで当館の企画運営アドバイザーを務め、平成26年度に当館館長に就任し、以来、長年の学芸員経験から、事業運営にあたって数々のサポート、助言をくださいました。また、親しみやすい人柄から、職員や近隣の方々にも慕われ、その豊富な人脈に助けられたことも数知れません。

生前の館長は、「美術館は、訪れた人がまた来たいと思う場所なくてはならない」と常日頃から語っていました。また、企画についても学芸員の意思を尊重し、後押しをしてくれました。平成29年度の特別展「BODY / DRESS」はチャレンジングな企画でしたが、末吉館長が多方面から支えてくれ実現した展覧会です。

平成30年度は、企画展「ガラスの植物園」、特別展「ガラスのうつわ～手から生まれる暮らしのうつわ」、収蔵品を紹介するテーマ展「透かし見る—ガラスの風景」を開催します。館長の言葉を心に刻みながら、今後も、当館のミッションである「ガラス芸術の発信基地」として、当館を訪れた方の知的好奇心を刺激し、豊かな芸術文化を育む場となるべく精進していきたく思います。



末吉館長のご冥福を心よりお祈りいたします。

末吉守人館長(平成27年3月撮影)

トピック②

絵本のじかんですよ。

特別展の関連プログラムとして開催した「絵本のじかん～絵本で感じる作品世界」を、平成30年度は各展覧会で行います。絵本の読み

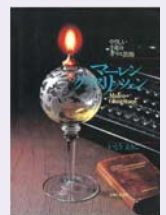


がたりの後、学芸員と一緒に展覧会を見に行く鑑賞プログラムです。展覧会テーマとリンクして、作品世界を広げてくれるような絵本を探すのはなかなか大変ですが、とても楽しくもあります。子どもから大人までどなたでもご参加いただけますので、ぜひお越しください。学芸員がどんな絵本を選ぶのかも乞うご期待。詳細は美術館HPに随時アップしていきます。

学芸員のおすすめ図書

『マーレングラスリッツェン やさしい手彫りガラス彫刻』(いとうえりこ、1998年、主婦と生活社)

ダイヤモンド針でガラスや鏡に絵柄を彫る方法を紹介している本です。道具や手順のほか、繊細な彫刻が施された作品写真や絵柄も多く掲載されていて、とても魅力的かつ実用的です。当館の「わくわくワークショップ」でも参考をしています。



これからの展覧会 (平成30年度事業予定)

企画展

ガラスの植物園

会期 / 2018年4月21日(土)～7月22日(日)

私たちは身近な草木から季節の移ろいを知り、新緑のみずみずしさ、咲き誇る花の美しさを愛で、花の散りゆく様に人生のあり様を重ねます。私たちの感情に寄り添いながら暮らしの様々な場面を彩る植物は、ガラス造形の世界でも、その魅力的な姿や生命力が作家の創造力を掻き立て、実に多彩な作品が生み出されています。ガラスに表れた植物の姿は、その精緻で力強い自然の造形への驚きや、儚く美しいものへの憧憬、様々な記憶や感情をも内包し、私たちの心の深部に触れてきます。新緑の季節にぜひガラスの植物たちをご堪能ください。



「植物の記憶」佐々木類 / 2017年 / 作家蔵



「種子のかたち(小文間の植物シリーズ 2015-2)」
藤原信幸 / 2015年 / 個人蔵
撮影: 小田喜逸朗

特別展

ガラスのうつわ

手から生まれる暮らしのかたち

会期 / 2018年7月28日(土)～11月4日(日)

近代以降、ガラスが表現素材として用いられるようになると、いわゆるアートとしての作品だけでなく、食器など私たちの身近にあるガラスのうつわのかたちにも作家たちの多彩な制作活動による多様な表現の展開を見ることができます。

作家が使い手の目線に立ち、自身の提言や創意を織り交ぜ制作したガラスのうつわは、感覚をとおして見る者を楽しませるだけでなく、使われることで暮らしに彩りを与え、豊かなものへと導きます。

本展では、暮らしに寄りそううつわに見る作家たちのかたち・表現をとおして、ガラスのうつわの現在(いま)を探ります。



「双飾耳色モール花瓶」船木優帆 / 制作年不詳 / 松尾地所株式会社蔵
撮影: 佐藤拓央
画像提供: 高草木博純



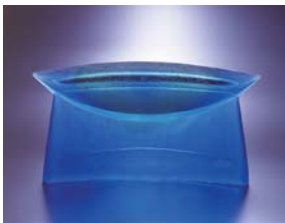
「モザイク文鉢」船木優帆 / 制作年不詳 / 松尾地所株式会社蔵
撮影: 佐藤拓央
画像提供: 高草木博純

テーマ展

透かし見る—ガラスの風景

会期 / 2018年11月10日(土)～2019年3月31日(日)

美術におけるジャンルの一つである「風景」。目の前に広がる景色や眺めは、見る者の主観や関心、時代性と結び付いて、様々な意味を持つと言えます。作品には、自然の景色、都市の景色、人々の日常の営みなど、目に映る現実の風景に作家の視点が加わり、新たな風景が独自のイメージとして立ち現れます。本展のタイトルである「透かし見る」という言葉には、よく見えないものを目を凝らして見るという意味があります。コレクション



「月光と地平線の軌跡」岸厚男 / 1995年 / 石川県能登島ガラス美術館蔵



「時の船」バヴェル・フラヴァ / 1998年 / 石川県能登島ガラス美術館蔵

作品をとおして、ガラスの向こう側に透けて見えるもの、作家の心に描かれたものを見つめてみましょう。

ガラ美から車で30分!

石川県七尾美術館で開催される
平成30年度の主な展覧会

能登立国1300年 長谷川等伯展
～等伯の挑戦と継承せし者たち～

会期 / 2018年4月28日(土)～5月27日(日)
観覧料 / 一般800円(700円)、大高生350円(300円)、中学生以下無料

世界が絶賛した浮世絵師

北斎展 ～師とその弟子たち～

会期 / 2018年8月4日(土)～9月17日(月・祝)
観覧料 / 一般800円(700円)、大高生350円(300円)、中学生以下無料

2018イタリア・ボローニャ
国際絵本原画展

会期 / 2018年11月2日(金)～12月9日(日)
観覧料 / 一般800円(700円)、大高生350円(300円)、中学生以下無料

※()は20名以上の団体料金

詳細は石川県七尾美術館まで(TEL:0767-53-1500)

トピック③

ホームページリニューアル

スマートフォンの普及などで誰でも簡単にインターネットにアクセスできるようになり、美術館が実施しているアンケートでも「美術館HPを見て」来館される方の割合が上位を占めるようになってきました。利用者が知りたい情報をより探しやすくするため、美術館HPをリニューアルしました。PCだけでなくスマートフォンからの閲覧にも対応できるように、自動的に表示サイズが切り替わるレスポンシブデザインや、トップページにスライダー機能を導入するなど、より見やすく分かりやすいレイアウトデザインになりました。



平成30年度 ボランティア募集中

美術館活動をサポートして下さる方を下記のとおり募集します。

当館のボランティアは登録制です。ご都合が合う時間で1回からでも参加できます。詳細などは当館までお気軽にお問合せください。

募集対象：高校生以上で、説明会に参加いただける方(説明会は随時開催)

活動内容：①館内の順路案内、監視 ②イベントのお手伝い

活動時間：1回につき3時間程度

＊お礼として1回のご参加につき当館招待券2枚を進呈します。

受付期間：平成30年3月1日(木)～平成31年2月28日(木)

「ガラス美のおすすめ利用サービス」

●美術館スタッフによる館内案内

事前に電話でお申込みいただければ、ご要望の時間に合わせて当館スタッフが施設概要や作品解説を行います。なお、案内サービスの受入れは一度につき約50名までとなります。

所要時間：施設概要のみの場合 10分程度

施設概要と作品解説の場合 40分程度

●ガラス美のわくわくシート (子ども向けセルフガイド)

当館の収蔵品について学べる小学生向けのワークシートです。ご家族やお友だちと一緒に考えることで、作品鑑賞がより楽しくなる内容となっています。ぜひご利用ください。



●七尾市文化施設等共通観覧券

七尾市の文化施設を有効期限内なら何度でも利用できる共通券を販売しています。当館でも購入＆利用ができます。能登観光や、美術館・博物館めぐりが好きな方におすすめです。

2日間パスポート：一般1,000円、学生(高・大)800円

1年間パスポート：一般2,600円、学生(高・大)1,300円

【利用対象施設】能登島ガラス美術館、七尾美術館、七尾城史資料館・懐古館、能登国分寺展示館、蝦夷穴歴史センター、中島お祭り資料館・中島お祭り伝承館、明治の館



美術館インフォメーション

◆入館料

個人(高校生以上) 800円

団体(20名以上) 700円

中学生以下 無料

*障害者手帳をお持ちの方は手帳のご提示で入館料が減免になります。その他、各種割引、減免金額については、直接お問合せください。

◆休館日

毎月第3次曜日(祝日の場合は翌日休)

年末年始(12月29日～1月1日)

展示替え期間、館内整備期間

*展示替え休館日は当館HPや年間スケジュールでご確認ください。

◆開館時間

4月～12月：午前9時～午後5時

1月～3月：午前9時～午後4時30分

*入館は閉館時間の30分前まで。

◆交通案内

自動車

金沢方面から…のと里山海道・徳田大津JCTを經由、能越道・和倉ICから約20分
富山方面から…能越自動車道・氷見ICを經由、七尾ICから約35分

電車・バス

金沢方面～和倉温泉駅…金沢駅から特急列車で約1時間

富山方面～和倉温泉駅…高岡駅から和倉温泉行きバス「わくライナー」で約1時間45分

和倉温泉駅～美術館…能登島交通バス「のとしま臨海公園ゆき」で約30分

「美術館前」下車すぐ

*能登島交通バスご利用の方へ

バス停「美術館前」は乗車と降車の場所が異なりますのでご注意ください。

飛行機

のと里山空港から車で約1時間

◆公式HP

美術館の最新情報、近隣の観光情報もご紹介!

<http://www.nanao-af.jp/glass/>

◆公式ブログ

美術館の出来事をスタッフが能登島弁でご紹介!

<http://notojima-garabi.cocolog-nifty.com/blog/>

石川県能登島ガラス美術館だより

Notojima Glass Art Museum : NEWSLETTER

発行 / 平成30年3月28日

第24号

- 目次
- 1 能登島ガラスコレクション作品紹介
 - 2 これまでの展覧会・イベント (平成29年度事業報告)
 - 3 これまでの展覧会・イベント (平成29年度事業報告) / トピック①アートとクラフトの島 能登島ガイドマップ
 - 4 H29年度ガラ美の足あと / 平成30年度の活動によせて / 学芸員のおすすめ図書 / トピック②絵本のじかんですよ。
 - 5 これからの展覧会 (平成30年度事業予定) / 近隣の施設情報
 - 6 トピック③ HP リニューアル / ボランティアの募集 / おすすめ利用サービス / インフォメーション

能登島ガラスコレクション 作品紹介



「Natural Lace」塚田美登里 / 2016年

底部が鋭く尖った形状をしており、ガラス質が浮き出た縁部分が今にも崩れていきそうな脆さを感じさせ、まるで生命が硬い殻を破った後の抜け殻のようにも見えます。陶土とガラスを調合した素地を石膏の型に粘土のように貼りつけて電気炉で焼成し、成形した作品です。このような制作プロセスは津守さん独自と言え、素材を探究しながら、焼成中に偶然的に現れる有機的なフォルムを取り入れた造形表現を展開しています。

ガラス全面に施された編み物の目のような模様が目を引く作品。塚田さんは、ガラスと金属など異なる素材との組み合わせで生まれる質感や色を取り入れた作品を制作しています。また、うつわのようなフォルムは、電気炉の中で柔らかくなったガラスが自らの重みで型に沿うように沈みこむことで作られています。

ガラスが下方へ伸びていく過程で生まれる有機的なフォルム、熱による金属膜の変化が見せる独特の模様や光沢を作品に取り入れることで、生命感、やさしく包み込むような空気感を表現した作品です。



「存在の痕跡」津守秀憲 / 2016年